

この度は、「コアカリ重点ポイント集〔改訂第7版〕vol.2」をご購入いただき、誠に有難うございます。

本書について、以下のとおり補足及び訂正させていただきます。

ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

薬学ゼミナール編集 コアカリ重点ポイント集〔改訂第7版〕 vol.2

補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後				
P142 ■3.2.1 代表的な骨・関節の疾患 表	<table border="1"> <tr> <td>骨基質</td> <td>非コラーゲン性タンパク (I型コラーゲン、オステオカルシンなど)</td> </tr> </table>	骨基質	非コラーゲン性タンパク (I型コラーゲン、オステオカルシンなど)	<table border="1"> <tr> <td>骨基質</td> <td>I型コラーゲン、非コラーゲン性タンパク (オステオカルシンなど)</td> </tr> </table>	骨基質	I型コラーゲン、非コラーゲン性タンパク (オステオカルシンなど)
骨基質	非コラーゲン性タンパク (I型コラーゲン、オステオカルシンなど)					
骨基質	I型コラーゲン、非コラーゲン性タンパク (オステオカルシンなど)					
P217 キサンチン誘導体(経口) テオフィリン徐放性製剤	……アデノシンA <sub>2</sub> 受容体……	……アデノシン A <sub>1</sub> 受容体……				
P372 8.8.4 大腸がん 表 2行目	直腸が最も多く、次にS状結腸に多い	直腸とS状結腸に多い				
P481 問 79	……D <sub>2</sub> 受容体作動薬や……	……D <sub>2</sub> 受容体遮断薬や……				
P499 問 157	正	誤				
P642 表 酸化反応の様式 ②アルキル側鎖の酸化	<p>ω酸化</p> <p>ω-1酸化</p> <p>ω-カルボン酸</p> <p>(ω炭素が水酸化されると一級アルコールとなり、非ミクロソーム系のアルコール脱水素酵素によりカルボン酸にまで酸化される)</p> <p>ω-1アルコール</p>	<p>ω酸化</p> <p>ω-1酸化</p> <p>ω-カルボン酸</p> <p>(ω炭素が水酸化されると一級アルコールとなり、非ミクロソーム系のアルコール脱水素酵素によりカルボン酸にまで酸化される)</p> <p>ω-1アルコール</p>				
P729 図	$k = k_1[H^+] = k_{-1}[OH^-]$ <p>pHが低い領域では [OH<sup>-</sup>]の値は無視できるため</p> <p>pHが高い領域では [H<sup>+</sup>]の値は無視できるため</p>	$k = k_1[H^+] + k_{-1}[OH^-]$ <p>pHが低い領域では [OH<sup>-</sup>]の値は無視できるため</p> <p>pHが高い領域では [H<sup>+</sup>]の値は無視できるため</p>				